

平成 26 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談(朝日町)会議録

- 1 開催日時：平成 26 年 10 月 27 日(月)9 時 30 分～10 時 30 分
- 2 開催場所：朝日町役場 2 階 大会議室(朝日町大字小向 8 9 3)
- 3 対談市町名：朝日町(朝日町長 田代 兼二郎)
- 4 対談項目：
 - 1 防災力の強化について
 - 2 防犯対策の強化について
- 5 会議録

(1) 開会挨拶

知 事

おはようございます。本日、大変お忙しい中、町長におかれましては、お時間をいただきましてありがとうございます。

朝日町におかれましては、先般 10 月 17 日をもって町制施行 60 周年という節目を迎えたということでおめでとうございます。

日本中の自治体が人口減少、特に社会減で悩む中で、朝日町はそれとは違う傾向を示す町であると思いますが、一方で今日もその話が出るかと思いますが、全国の現在の人口減少とは違う傾向を示す町勢であったとしても、それはそれで違う大きな課題もあろうかと思っております。そういう意味で今日は町長とのお話をさせていただいて、限られた時間ではありますが、有意義に過ごしていきたいと思っております。

併せて、今日、この後、プールや体育館を見せていただく朝日小学校は、開校して 140 周年と聞いておりまして、これは大変伝統のあるところで、この後、伝統と先ほどの新しい課題と共存させる非常に難しいやり取りもあろうかと思いますが、そういう意味で有意義な意見交換ができればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

朝日町長

おはようございます。今日は大変お忙しいところ、朝日町へ来ていただいて 1 対 1 対談ということで、ありがとうございます。

ひとつ先にお礼を申し上げたいと思いますが、知事はどちらの方から来られたかわかりませんが、県道の四日市市から桑名市へ行く線が、高速から下りると真っ直ぐですが、そのちょうど朝日へ入ってくる角のところへ、昨年から要望はしていましたが、道路敷の一部、開発がありまして、その関係で壁のような形だけしか残

らないという形の中で、朝日町として雑草などの管理を任せてもらう条件で県道敷をお借りし、今年から副町長さんが音頭を取りながら、職員もボランティアで協力しながら清掃をしていただいて、今年は、3度目くらいですか、ひまわりが咲いております。そのうち、来年の3月へ向けて、菜の花を咲ける段取りをしていただくのではないかと思います。そういう他の市町から入ってくるの一番目立つところでもあります。それだけにそういうことができたということを改めてお礼を申し上げます。

今日は2つほど大きな課題がありますが、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(2) 対談

1 防災力の強化について

朝日町長

まず、防災力の強化ということですが、前置きというよりも現状をぜひご認識もいただいて、そのうえで課題についてご提示申し上げたいと思います。

最近、ようやく具体的な東海・東南海地震の津波によるマップですが、青色のところまで水が来るという予想です。したがって、これがJRの路線ですが、そこから上に避難していただくというのが基本的な考え方です。ここまで水が来る予想はありますが、もちろん深さのいろんな違いはありますが、現実に50数年前の伊勢湾台風では、この役場の手前で来ておりましたから、そのときはまだ国道23号線もなかったですし、企業が設置されていなかったということで、事実上海岸堤防はない状況でありました。したがって、その近くまで来たということですが、現実に予想される東海・東南海の地震に伴う津波については、この辺まで来る。したがって、基本的には朝日町の避難は、先ほど申し上げたように場所としては、JRの線路から上へ逃げるといったことの想定をしております。

朝日町の場合、具体的な対象者としては、合計3,700人ぐらいの方々を避難対象者として上げております。そして、避難施設なり一次避難所としては、それぞれ8施設、そして、一次避難場所として11カ所、15,000人分、避難の可能なところを用意させていただいております。

そして、本来の避難予想として当然のことながら、川越町からの避難が予想されます。先般、これも県のご協力もいただきながら、朝日町・川越町の合同の防災訓練を行いました。1,000名を超える方々のご参加をしていただきましたが、そういう状況の中でも、特に川越町からの避難の方々は、予想として7,400人ぐらいは、朝日町の住民の倍近くの人数の方々が避難をされることが予想されます。

したがって、大きな課題といたしましては、広域連携は当然のことながら、協定も事前に結びながら初動の時点から広域連携の対応が予想される事態が起きるだ

ろうと見ております。したがって、現実、朝日町は逐次、物資等を含めて備蓄を始め始めておりますが、広域的な支援の分まで現時点では手が回らないことがあります。したがって、そういう場合の特に物資等の確保が、どこで問題化をするかということが一つあります。現実の問題としては、場所の問題もありますし、もし場所が広域的な形で確保できない場合については、当町なり避難が予想される川越町との話し合いで、具体的に共同でどう対応するかという課題もあります。いずれにしてもそういう面での県とのすり合わせをぜひやらせていただきたい。

そして、同時に物資もさることながら、同時に避難している方々の対応をしなければならないという面では行動のマニュアルも、先ほどの物資との関係もありますし、連携した形でのこれからの対応の計画をまず立てていかなければならないと思いますので、この点についても、県との方向性なり、具体的な対応の仕方なりをぜひ教えていただきたいと思います。

知 事

先般の9月21日に、朝日町と川越町でやっていただいた防災訓練には、県の防災対策部長も参加をさせていただいて、非常に緊密な連携が取れていたということと、たくさんの住民の皆さんそれぞれ参加をさせていただいて、非常にいい訓練だったと部長からも報告を受けておりますので、ぜひ引き続き、両町が連携した訓練を続けてほしいということでした。

今、町長からご説明があったような朝日町だけではなく、川越町の地勢や住民のことも考えた広域避難について、今、町長からは施設整備、物資の確保、行動の3つの観点からお話をいただいたと思います。

我々としては、今、県の中で広域避難については、特に海拔ゼロメートル地帯を有する桑名市・木曾岬町あたりが最も切迫しているといっても過言ではないと思っていますので、そのモデルみたいな検討項目をしっかりと整備したうえで、それを順次、他の地域へも展開していこうという考えでいるところで、その施設の整備につきましても、広域避難をするにあたっては、どういう施設の整備が必要なのかということ、既存の例えば県で言えば、避難階段や避難路をつけたりする地域減災力強化推進補助金もありますが、それでは足りないのかどうか、そういうのも含めて県北部海拔ゼロメートル地帯対策協議会をやっておりますので、そこでの結論を受けて、国にも財政支援の提言をしながら、国だけでは多分できないところもあると思いますので、県や市町でどういう費用分担をしていくか、そういう設計をさせていただければと思っています。

物資の面につきましては、正に平成24年8月に改定をさせていただいた市町の応援協定に関わるテーマであると思っております。市町の担当の皆さんで「県と市町における災害時広域支援体制構築連携会議」、「連携会議」と言いますが、で物資の確保について議論をしていると聞いております。特に流通業者、県と防災協

定を結んでいる、例えば三重県トラック協会とか、あるいは東海倉庫協会、そういうところも具体的に入ってもらいながら、今、物資の確保の仕組みについて検討をしているということでもあります。この平成 29 年度完成に向けて、北勢の広域防災拠点も準備する予定ですので、そこにも今ある伊賀や南勢や東紀州にある広域防災拠点においても、それぞれ物資を備蓄しております。そこも視野に入れた形で連携会議で議論をさせていただいておりますので、よく町の皆さんのお話をお伺いしながら進めていきたいと思っております。

行動の面においては、国の南海トラフの被害想定 L 1、L 2 共に踏まえた三重県新地震・津波対策行動計画をこの 3 月に出させていただいたところですので、それを踏まえた形で一定のルールづくりに取り組んでいます。地形条件や想定避難者数、確保できる避難所の数、ルート、そういう具体的な検討項目もありますので、完成するのは来年度ぐらいになってしまうと思いますが、具体的に詰めながら行動面について活動要領の作成にもつなげていきたいと思っております。

朝日町長

ありがとうございました。特に物資を含めて、備蓄の拠点として今、お話しされました北勢ブロック全体のそういう対応がされていくということですが、今のところ、先ほどご提起させていただいた部分として、こちらとして情報として聞いておりませんが、特に物資のところでも資機材が中心、それだけではないでしょうが、聞いております。ただ、現実には当座の支援という形になると、どうしても食料の部分があります。

これは一つの要望的な部分もありますが、今、知事からお話が出たように、今後、具体的に詰めていく形の中で、物資の面についても特に食料については、どれだけの部分がそれぞれの市町で割合として必要なのか、広域的にはどれくらい保管部分を確保していただくか、そういう点のすり合わせをお願いしたいと思います。

2 防犯対策の強化について

朝日町長

それでは、2 点目の防犯の問題ですが、去年は朝日町で中学 3 年女子生徒の殺害事件が起こりまして、これに県が即、対応をしていただいて、県道沿いへの街灯を早速、設置していただき、改めてお礼を申し上げます。

朝日町としては、それに合わせてということもありまして、特に防犯灯の LED 化を今年度から 3 力年にわたって全町的に取り替えていこうと計画しています。これは明るさの面でもありますし、省力化ということもありまして、それぞれ町が実施する部分、そして、それぞれ地区がご協力いただく部分の形の中で進めてきております。

ただ、特に防犯の面では、先ほど冒頭、知事をご挨拶の中で触れていただきましたように、子どもの数の増加が人口増に伴ってあります。特に朝日川越交番が設置された平成 17 年以降の人口増加は、園児は 211 名から 470 名、そして、小学生は 407 名から 1,004 名、中学校では 182 名から 299 名ということで、子どもたちの数が増えている。したがって、そういう危険度が増えているという状況があります。

伊勢湾岸自動車道、北勢バイパスなどの道路整備が進展する中で、それだけに町内を通り抜けるのを含めて入ってくる車も増加をしております。それだけに現在ある交番のところから離れた、先ほど申し上げた西側のほうの開発が多くの子もたちが集中している形の中で、町としては防犯のためのいろんな活動を加えております。随分前からやっていますが、こういうふうに町民の方々に協力していただきながら、軒先にこの看板を付けていただいて、子どもたちが何かあった場合にそこへ駆け込むことができること。それから、まちづくり活動の中では日常の安全活動なり防犯の見守りも自発的にやっていたりしている部分があります。

とはいえ、先ほどもありましたような状況ですので、改めてしっかり朝日川越交番の方々がご努力をいただいて見回りをしていただいておりますが、身近に駐在所なり立寄所なり、そういうものがあるということが、犯罪の抑止力にもなりますので、この点での配慮をぜひお願いをしたいと思います。

知 事

まずは、先ほど町長も触れていただきましたが、昨年 8 月 25 日に事件が発生してから 1 年余が経過して、改めて寺輪博美さんに心から哀悼の意を表したいと思えますし、ご遺族の皆さんにお悔やみ申し上げます。

また、その事件は、加害者が事件当時、県立高等学校の生徒であったということもあり、県民の皆さんに大きな不安や戸惑いを抱かせることになって、大変遺憾に思っております。二度とこのような悲劇が繰り返されないように、県や教育委員会を挙げてしっかり取り組んでいかなければならないと思っております。

防犯の関係ですが、数字的な話や朝日町でしっかり頑張っていたりしている話も含めて少し話したいと思えますが、まず、刑法犯の認知件数自体は、平成 21 年からこの 5 年間を見ますと、平成 25 年で朝日町で 123 件、前年比でマイナス 23 件で、平成 21 年と比べても 16 件減少しているということで、人口や世帯数が増えている傾向がある中でも、多くの皆さんの地域の見守り活動のおかげをもちまして、今、申し上げたような刑法犯の認知件数は朝日町においても、この 5 年間で減っていった状況です。

そういう取組の一環として、教育委員会を中心に学校安全ボランティア組織や活動の充実を図ってきていますが、朝日町でも 736 人の方々が登下校時に子どもの安全を見守っていただいている状況と聞いております。

また、教育委員会を中心に「地域安全マップづくり講習会」を開催していますが、

朝日町教育委員会からも指導主事の方にご参加をいただいて、既に朝日町の小中学校では地域安全マップを作成済みということで、こういう形で学校教育を通じて、また、ボランティアの皆さんを通じて、町民の皆さんによる見守り活動をしっかりやっけていただいていると思っております。

一方で、この10月の議会にも、来年度の三重県の経営方針の中間案ということで、県のいろんな政策のPDCAを回す最初のPの経営方針案の中間案を出させていただきましたが、そこには刑法犯の認知件数は、全体的に県としては下がってはいっていますが、例えば、スーカーとかDVとか、あるいは、子どもや女性への声掛け事案とか、あとは種類が違いますが、インターネットバンキングの不正送金や危険ドラッグとかが過去最高の数字になっている住民の皆さんの身近で、しかも発見されにくくて、そういう脅威が過去最高のところに来ていることもあるので、それに対する早期発見や防御の手段について、来年度の予算では重点的に、特に注力して取り組むテーマとして掲げております。そういうような観点でやっけていこうと思っております。

ここまでやれば完璧というのは防犯も防災もないと思います。その中でどういうふうにももの優先順位をつけながら、ここまではしっかり取り組んでいるというのを住民の皆さんにお伝えしながら、足りない部分についてはこういうふうに行っけていく、あるいは、多くの皆さんの力を借りて取り組んでいかなければならないというようなことをお伝えしていかなければならないと思っております。なので、行政や警察だけでできない部分も多いですが、そういう形での県民の皆さんへの説明もしっけて行っけていかなければならないと思っております。

先ほど町長からありました朝日川越交番の件については、一応交番の設置などについては、地域の治安情勢、人口の増減、犯罪の発生状況などを総合的に勘案して公安委員会で決めていきますが、駐在所は基本的に昼間の警戒活動を行っているところなので、それを近年のライフスタイルでも24時間化とか夜間型になってきているのを踏まえて、なるべく小さい駐在所は統合しながら、交番をつくって少し広域に警戒して行っけていこうという方針で今やっけておりますので、交番の設置や交番警察官の配置については、県警でいろんな県内の情勢を見ながら、今、申し上げたような人口や治安情勢、犯罪の発生状況などで検討していただくものでありますので、今日、町長からお話があった件については、県警本部にも朝日川越交番を設置した平成17年から人口が増えている情勢にあることは、しっけてお伝えをさせていただきます。

一方で、今、申し上げたような形で人員・財源には一定の限界がある中で、ここまですれば完璧というものはいいませんが、それをみんなで力を合わせてやっけていかなければならないということですので、朝日町におかれては、先ほど私がいくつか申し上げたような形でしっけてやっけていただいておりますが、改めてそういう場を広げていただくことをお願い申し上げたいと思っておりますし、私たちもしっけて協力させ

ていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

朝日町長

全体的にご回答いただいてありがとうございました。

ただ、ご回答いただいた中にもありますが、朝日町に駐在所があって、それから、朝日川越交番ができた。そのことによって、さっきのお話のように24時間体制でいろんな見回りをしていただける形の面では、安全・安心を守る意味で大事なところがあります。それだけに、その時点から随分様相が変わったということでもありますので、改めて位置の問題もさることながら、なかなかすぐにはできない部分がありますので、それを補完できるような立寄所なり、交番自体の人の状況も含めて、少しでも見回りが増えるような形でぜひご努力いただければありがたいと思います。ありがとうございました。

知 事

立寄所の設定場所やパトロールの強化については、正にいきなり建物を建てることでなくても、柔軟にできる部分もあろうかと思っておりますので、その点も含めて、今日、町長からそういうお話があったことを改めて県警本部に伝えて、よく検討するように言いたいと思います。

知 事

田代町長ありがとうございました。防災と防犯という正に県全体の共通の課題ではあるものの、先ほど申し上げましたように、朝日町は人口が増えている中、社会増がある中での課題であると思っておりますので、県の他地域とも違う様相もあろうかと思っておりますから、そういう意味では朝日町と事務方も含めて、よく議論をさせていただきながらやっていかなければならないかと思っております。特に社会増が増えてきているケースにおいては、コミュニティーの形成が難しい部分もあろうかと思っております。

そういうことで特に“いざ”ということが発生したときへの対応にいろんなご懸念を持っていただいていると改めて認識をしているところですので、これからも議論を重ねて前進できるようにしていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

今日はどうもありがとうございました。